

マダガスカルにおける水産業を核とする地域開発に関する研究

著者	櫻井 恵子
学位名	博士(海洋科学)
学位授与機関	東京海洋大学
学位授与年度	2017
学位授与番号	12614博甲第487号
URL	http://id.nii.ac.jp/1342/00001587/

【課程博士】 (博士論文審査及び最終試験の結果要旨)

学生氏名：櫻井 恵子

博士論文題目：マダガスカルにおける水産業を核とする地域開発に関する研究

博士論文審査：

学生から提出された博士論文について、公開発表会が8月18日に行われ、審査委員と学生の間で質疑応答が行われ、その内容が博士論文としての質を十分に確保しているとの結論に至った。

本論文は、マダガスカルを事例地として地域漁業と水産物流通との関連を明らかにし、水産業分野を核として地域開発を行う際の開発のあり方を検討したものである。同国は、1日1.25米ドル以下で生活する貧困層の割合が人口の82%に及び、効果的な貧困削減対策が求められている。一定の成果をあげたアジア型の経済発展を導入モデルに、様々な国際機関や各国政府の開発援助がアフリカに対して支援を行っているが、その取り組みがアフリカの持続的開発に貢献している事例は多くない。アフリカ諸国の抱える大きな問題の一つは、増え続ける人口に対する食糧確保が十分ではないことで、マダガスカルも同様である。政府は食料増産を掲げ、国民の82%が従事する第一次産業の振興を開発課題として重視している。中でも水産業に関しては、内水面養殖の活性化と沿岸漁業に従事する零細漁民振興への取り組みを重点課題としている。このような状況を背景として、本研究では、①開発途上国に対する地域開発と水産開発の支援内容の変遷を明らかにする、②マダガスカルの水産政策の展開を明らかにする、③マダガスカルの水産業を取り巻く地域の所与要因を明らかにする、④地域開発における水産開発の意義と課題を明らかにする、ことを目的とした。その際の分析視角として重要視したのが水産バリューチェーンの解明である。調査対象地は、海面漁業地域としてプエニ県、アチムアンジェファナ県の2カ所、内水面漁業地域のアロチャマンゴロ県を取り上げた。プエニ県では複数の流通主体によって流通ルートが確立されており、県外への流通が中心を占めている。他方、アチムアンジェファナ県では、工業原料としての養殖海藻、ナマコ、フカヒレなどの国際商品の生産が盛んで、輸出志向の流通が発展しているが、国内市場向けの流通は未発達である。このような流通体制の解明を通じて流通の非効率性の課題解決を目指すことで、貧困状態に置かれている零細漁業者の収入改善を図り、水産業を核とする地域開発が達成されると考えられた。

審査委員からは、サプライチェーンとバリューチェーンの概念規定を明確にした上で、議論を進める必要があるとの指摘があり、修正で対応することとした。従来の水産分野での国際協力については、技術移転偏重の傾向があり、流通・販売までを視野に入れた協力を通じて、水産業を核とする地域開発を目指す必要があるとの指摘がなされてきた。本研究は、著者が直接国際協力事業の現場に身を置き、途上国での事例分析を通じて、上記の指摘を検証したと言う点で、国内外の研究の水準に照らし、当該研究分野における学術的意義、新規性、独創性及び応用価値を有しており、博士の学位に値することを審査委員一同確認した。

最終試験の結果要旨：

最終試験は論文公開発表に引き続き平成29年8月18日に行われた。審査委員一同出席の下、合同セミナーへの出席が60時間に達していることを確認し、英語能力については、本論文要旨の英訳および投稿論文の英文要旨により問題ないことを確認した。専門知識については、公開発表会(平成29年8月18日実施)及び予備審査会(平成29年6月25日実施)における質疑応答を通じて、十分であると審査委員一同確認した。中間発表は平成28年8月22日実施の中間発表会で行っていることを確認した。また、大学院海洋科学技術研究科が指定した研究者倫理教育を修了していることを確認した。以下の学術論文(櫻井恵子、マダガスカルにおける地域漁業の役割と水産物流通の形成要因—北西地域と南西地域の事例から—、国際漁業研究)が、退学後1年以内に受理される見込みであるため、学位論文審査要項第22条(学位授与の特例)の適用条件を充たしていると判断した。その後、投稿論文が受理されたことから、平成30年8月24日に審査員一同で確認し、学位授与を認める判断をした。